

# はじめに

「限界突破キャンプ」の3年間の成果を生かし、今年度は、対象者やプログラムを見直し、新たに「あかぎ無限大キャンプ」としてスタートしました。今回は、単年度事業としてではなく3年間で完結することを目指し、3年間をかけてよりよいプログラムに改善して、実施していきたいと考えます。

主な変更点ですが、

- 3年間を見通した「目指す子供像」を掲げました。事業担当者が変わっても3年間を通して、この「目指す子供像」に向けて取り組んでいきたいと考えました。(P1(2) 目指す子供像参照)
- 昨年度、試行として実施しました「学校法人慶應義塾大学医学部眼科・株式会社坪田ラボ・独立行政法人国立赤城青少年交流の家」の三者の共同研究に、今年度から「近視予防フォーラム」が入り、四者の共同研究が本格的に始動しました。また、推進委員として事業の企画の段階から、ご協力いただくことになりました。
- 対象者を異年齢集団(小学校5年生~中学校2年生)から同年齢集団(小学校5・6年生)に変更しました。これは、前述の共同研究を進めていくうえで、事業に参加していない対象群にまで広げて検査していく可能性を考えてのことです。(P16【展望】参照)
- プログラムも登山中心の活動から、屋外のグループ活動中心に①ゆとりのあるプログラム②選択できるプログラムを入れる計画を立てました。残念ながら選択登山はできませんでしたが、自分の意志表示ができることを目指し、今回は実施できることを願っています。(P5(2) プログラムデザイン参照)

新型コロナウイルス感染症の対応について、「国立赤城青少年交流の家における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」に基づいて取り組んできましたが、新型コロナウイルス感染症はまだ終息しておらず、今年度は事業の日程短縮の決断をすることとなりました。(P4(1) 日程参照)

このことにより、多くのことを私たち「赤城のスタッフ」も学びました。青少年教育施設で長期自然体験事業を安全に実施するために、今後、事前キャンプ・本キャンプ・事後キャンプの参加の際に検温だけでなく、「抗原検査」の実施を全員にお願いする等の対策が必要だと強く感じました。(P18(2) 課題参照)

8月11日に保護者の方に集まっていただき、日程短縮の決断から、当日までの状況説明を行いました。説明終了後、保護者の方々から「こういう事態の説明も受けて、参加していますから。」と声をかけられ、保護者の方々への事前説明と事業担当者からの細やかな連絡が、信頼関係を築くために必要なことだと改めて思いました。

「あかぎ無限大キャンプ」としては、まだ一歩踏み出したばかりです。

本報告書が、長期自然体験事業を実施する青少年教育施設の皆さんに少しでも活用していただけることと、青少年の体験活動の推進を図る一助になることを願っています。

国立赤城青少年交流の家 所長 松村 純子

# 目次

はじめに

## 1. 令和4年度あかぎ無限大キャンプの推進

(1) 趣旨	01
(2) 目指す子供像	01
(3) 手立て	02
(4) 実施概要	02
(5) 推進委員会の概要	03

## 2. あかぎ無限大キャンプ事業の内容

(1) 日程	04
(2) プログラムデザイン	05
(3) 安全対策	06
(4) 各キャンプの内容	
①ボランティア研修キャンプ	07
②事前キャンプ	08
③本キャンプ	09
④事後キャンプ	11

## 3. 調査結果

(1) 当所実施のふりかえりシートからみる参加者の変容	12
(2) あかぎ無限大キャンプにおける社会的能力の変容	14
(3) 慶應義塾大学医学部・国立赤城青少年交流の家・株式会社坪田ラボ・近視予防フォーラムとの共同研究	15

## 4. 成果と課題

(1) 成果	17
(2) 課題	18
(3) 推進委員より	19
(4) スタッフより	20

おわりに	22
------	----